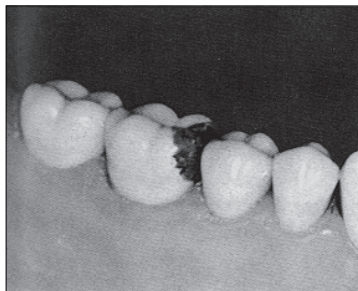


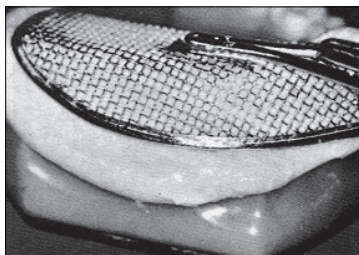
## 使用方法

### A. 暫間クラウンの作り方 ( ㊦ のケース)

1. 実質欠損のある場合はあらかじめジーシーキャトン(水硬性仮封材)で欠損部を充填しておきます。

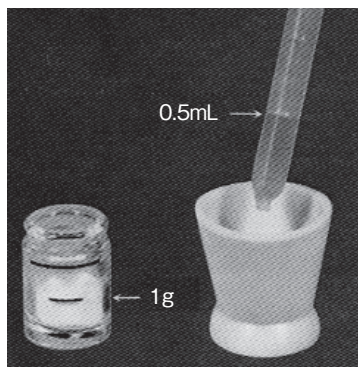


2. 歯冠形成前の印象をジーシーアローマファイン プラスで採得します。その際水量をやや少な目にすれば硬い印象が得られ、あとの操作が容易になります。印象は水分の蒸発による変形を防ぐため、濡れたガーゼなどに包んでポリエチレン袋に保存しておきます。

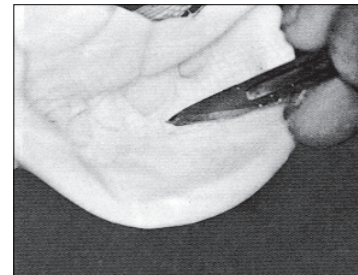


3. 歯冠形成後、形成表面にうすくジーシージュラコート(分離材)を塗布します。この操作はレジン液の歯髄への反応を防ぎ、レジン硬化後の分離を容易にします。

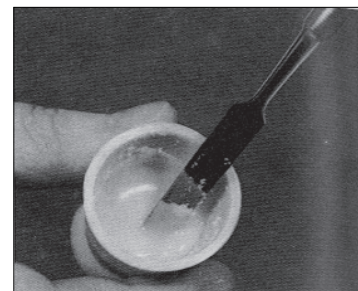
4. 標準粉液比は粉末1gに対し液0.5mLです。添付の粉末計量器は1目盛約1g、液用スポイトは1目盛約0.5mLです。従って粉末1目盛に対し液1目盛の比率で適量の粉液が採取できます。



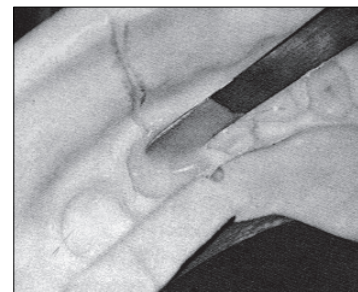
5. 操作2で保存してあった歯冠形成前の印象を取り出し、形成歯の頬側並びに舌側の歯頸部から粘膜部に至るV字形の溝をナイフ又は彫刻刀で作ります。この溝は余分のレジンの逃げ道となり、クラウンが高すぎたり、軸面が厚すぎたりするのを防止します。



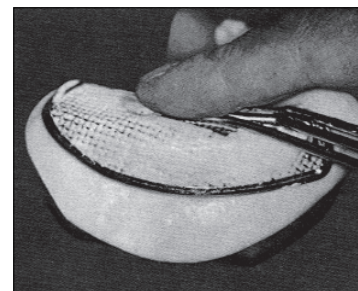
6. 必要量の液をラバーカップに採り、軽く振動を与えながら適量の粉末を加えます。セメントヘラなどで気泡を埋ししないよう約30秒間混和します。



7. 混和完了後、レジン徐々にペースト状に移行しますが、レジンがなおクリーム状を呈しているとき(混和後2~3分)セメントヘラなどを用いて㊦の印象内に適量注入します。



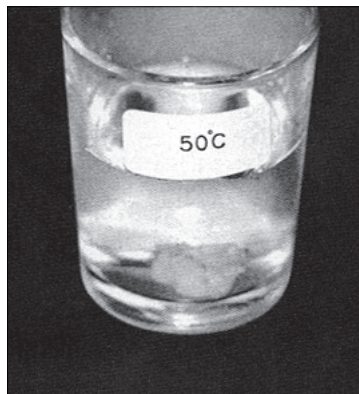
8. 印象を口腔内に挿入、形成歯に適合するよう圧接します。



9. 約3分間印象を保持して撤去します。この際、形成歯には硬化前のレジンが残存し、余分のレジンが溝からあふれでます。



10. レジンが完全硬化する前、形成歯から取り外し、約50℃の温湯に浸漬して完全に硬化させます。またこの際、形成歯への試適と温湯への浸漬を数回くり返しますと、適合のよい暫間クラウンが得られます。



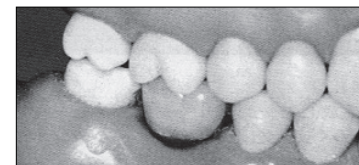
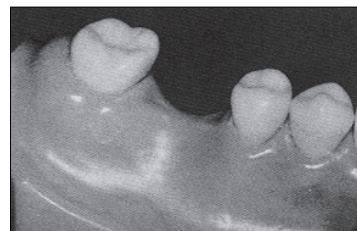
11. 歯頸部周囲の余剰部分のレジンスタンプバーなどで修正します。



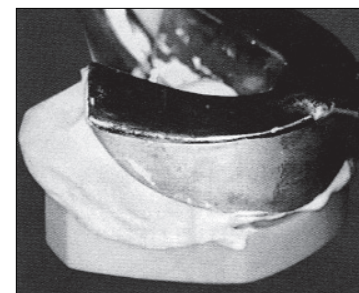
12. 完成した暫間クラウンは、フリージノールテンポラリーバックを用いて形成歯に装着します。

## B. 暫間ブリッジの作り方 (765 のケース)

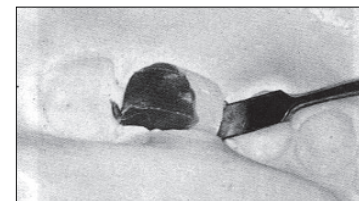
1. 欠損部に適合する既製の人工歯を選び、近遠心部と基底部にジーシーユーティリティークワックスを盛って固定し、対合歯との咬合関係をチェックしておきます。



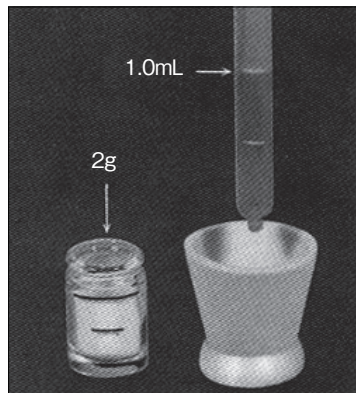
2. A2と同じく支台形成前のアルギン酸塩による印象採得を行います。この場合全顎トレーを使用すれば印象を再度定位に戻すとき便利です。



3. ポンティックは印象内面に残っていますから、印象を損傷しないように注意深く取り出します。



4. このケースでは粉末計量器2目盛(約2g)の粉末と液用スポイト2目盛(約1mL)の液が必要です。



5. V字形の溝の準備、粉液の混合、印象への注入、形成の終わった歯列への圧接、温湯への浸漬、完全硬化、修正などの要領はA5～A11と同様です。



6. 完成した暫間ブリッジは、フリージノールテンポラリーパックを用いて装着します。